

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2772401259		
法人名	特定医療法人 美杉会		
事業所名	グループホーム美杉		
所在地	大阪府枚方市西招提町2166番地		
自己評価作成日	平成 26年 1月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 3月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2772401259-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 2月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活の安定を図りつつ、その人らしい生活を過ごして頂けるように職員、入居者、家族、地域の方と共に話し合いながら、生活環境を整えていけるように取り組んでいます。入居者一人ひとりに合わせた支援が出来る様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献している特定医療法人を母体として、老人保健施設に隣接された2ユニット18名定員のグループホームです。3階建ての1、2階部分がデイルームと居室になっています。法人理念のもと、グループホーム美杉の願いとして「一人ひとりの思いを理解・尊重し、大切にしていきます」を目標に掲げています。利用者は穏やかでゆったりした空間で過ごしています。運営推進会議への参加や家族会を年3回開催する等、多くの家族が参加できるように工夫しています。家族の面会は多く、職員はその都度声かけをして意見や意向を大切に聞いています。家族と利用者、職員ともに一人ひとりの気持ちを考え、安心して居心地の良い生活ができる空間作りをする支援に努めています。在宅医療部の併設で緊急、重度化対応や看取りの実施ができる体制があり、利用者や家族の安心に繋がっています。管理者と職員は「これで良いのか、不具合はないのか」と日常的に意見を出し合える関係です。利用者からのねぎらいの声かけに喜びを感じながら、新しい支援作りを模索しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な話し合いを行うとともに部署会議やケースカンファレンス（認知症に関わる検討会議）の時などに理念をもとに話し合っています。	「一人ひとりの思いを理解・尊重し、大切にしていきます。」「利用者さんが安心して生活できる雰囲気・環境作りに努めます。」「地域の中でその人らしい生活が支援できるように、地域とのつながりを大切にしていきます。」を目標に掲げ、利用者一人ひとりに寄り添った支援をしています。認知症、重度化が進んでいるなかで、全職員で目標の見直しを行い、より質の高い支援の実践につながるよう、検討する予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの立地が住宅街の端にあるので、地域の一員として日常的な交流を地域住民と図ることは、難しいが近所のスーパーやコンビニへ買い物に行くなど、交流の機会を作れるように努めています。	利用者が、近隣のスーパーやコンビニへ定期的に出かけることで馴染みになり、店員等から声をかけてもらえる関係ができています。知り合いだった近所の人や併設の老人保健施設利用者とも交流を図っています。管理者は、認知症サポーター講習会を年2回開催し、講師として地域活動に貢献しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に1回開催している運営推進会議にて入居者の日常生活について話をしたり、認知症について、地域住民の方が気軽に相談できる場所として、どのように取り組んでいくべきかを検討しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催している運営推進会議でのご意見をサービスの質の向上に繋げるよう心掛けています。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族、職員が出席し、2カ月に1回開催しています。ホームから現状報告を行い、出席者からは催事等の情報提供があります。「認知症の理解」や「相談先」が話題となり、認知症サポーター講習会の開催に繋がっています。	今後は、運営推進会議において事業所の具体的な取り組みや改善課題等を議題として挙げる等、サービスの向上につながるよう、話し合っははかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、連絡をとるようにしています。	日頃から、市の担当者とは運営に関する相談等を行っており、ホーム内の実情や取り組みについても理解を得ています。市の担当者には、外部評価結果や事故報告書、運営推進会議議事録なども提出しています。また、グループホーム連絡会にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を確保しつつ、一人ひとりの自由な生活を支援できる様に努めています。	日中は、エレベーターを含め開錠しています。老健への通路はチャイムを設置しています。年に1回程度は外部研修を受講し、資料は全職員に回覧しています。また、参加した職員は伝達研修を実施する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議や勉強会で意識の向上に努め、入居者のご家族からも意見を聞き、状況の変化に注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適宜関係機関と相談しながら、支援に努めています。 開設以来6名の方の手続きに携わってきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、ご家族との話し合いを十分持つようにしています。 不安な事柄や疑問点について理解を得られるように説明を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際には、必ず声をかけ職員と馴染みの関係が築けるように努めています。 年に3回家族会を開催しています。 また玄関には、ご意見箱を設置しています。	年3回、母の日、夏祭り、クリスマスの行事の際に家族会を開催しています。 日頃から、家族と関わりのある管理者が司会を務め、多数の家族が参加し、食生活の充実などについての提案等、意見を交わして運営の向上に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員と話し合う場を持つようにしています。また職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。	管理者は、全職員と個人面談を行い、運営に関する意見等を聞いています。 また毎月、意見交換として詰所会議を行っています。会議開催前には提案や意見を、開催後には感想を文書で受け付けています。職員が提出した文書は、リーダーと検討し、運営に反映させています。新規利用者が入居する際は、職員間で受け入れについての相談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員と話す機会を設け、職員一人ひとりが向上心を持って働けるように職場の環境整備に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での勉強会を定期的を実施しています。 法人内研修は職員の段階に応じて実施しています。また外部研修の受講についても支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの指導の下、地域内のグループホームが集まり、情報交換等を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず見学に来ていただき、ご本人、ご家族から要望や不安なこと等を確認するようにしています。 入居時には、更に詳しい情報が得られるよう書面にて確認しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでに、いつでもご本人やご家族が来所や電話で相談できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際に必ずご本人、ご家族と面談を行い、必要とされている支援を確認し、計画作成担当者を含めた職員で話し合いを行い、支援内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、散歩に出掛けることで、入居者に教わるが多々あります。 レクリエーションで楽しい時間を共有することでお互いの思いを感じることができるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話連絡をした際には、最近の状況を報告したり、嬉しい事柄は共に喜び、問題が発生したときには、原因を解決する為に相談できるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームとして十分に支援ができておらず、ご家族の協力を得ながら支援できるように努めて行きたいと思っています。 職員との会話の中に馴染みの人や場所の話題を出すようにしています。	近隣から入居した利用者に、近所の知り合いが数名、曜日を決めて面会に来ています。他の利用者の話し相手にも繋がり、馴染みの関係となっています。また、入居前から関わっていた教会仲間の訪問もあり、関係が途切れないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での行動や発言を見守り、入居者同士の橋渡しの役割ができるように職員間で情報交換を行っています。 入居者同士が心穏やかに関わりが持てるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから連絡を取ることには、していませんが会う機会があった場合は、必ず声を掛けて、状況を確認するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを聞く機会を持つように入居者が何を望んでいるかを把握するように努めています。把握する事が困難な場合は、ご本人の視点に立って話し合うようにしています。	職員は、利用者の声や表情、対話を通して思いや意向を把握し、会話した内容をそのまま丁寧に記録に残していません。家族にも丁寧な聞き取りを行い、電話での会話、面会時での意見など、ケース記録に記載し、モニタリングに繋がっています。	毎日の記録を確実にしています。今後はさらに、モニタリングからケースカンファレンスでの評価を行い、介護計画へ繋げる際の記録から見える、利用者の思いや意向をツールとして活用することが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし等について話を聞く機会があれば、記録に残して職員間で周知できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に話をしたり、作業をする中で様々な方面から入居者をみるように努めています。その内容を記録に残して職員間で話し合うようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で入居者の状態や気付きの記録を残すことに努め、ケアカンファレンスでは、ご家族の意見を含めた話し合いを行い、介護計画を作成しています。	毎月のカンファレンス会議で、利用者一人ひとりの課題とケアのあり方について検討しています。モニタリングは毎月実施しています。介護計画は3ヵ月毎の見直し、状態に変化がない場合は6ヵ月毎、変化がある場合は随時の見直しをしています。利用者、家族にも説明を行い、同意書を得ています。介護計画は全職員が回覧し、職員間で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの介護計画を把握して、それに基づく記録ができるように努めています。 記録内容を根拠にして、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの要望を聞き出せるように努め、状況にあわせた様々な支援ができるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、協働できていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診時に看護師や職員より医師に報告や相談をしています。往診日以外でも体調に変化があれば、連絡しています。医師からの指示は、必ずご家族に伝え、ご家族からの要望があれば、医師と話し合える機会を持てるようにしています。	提携医療機関の医師による往診が2週間に1回あり、希望する利用者は受診することができます。往診日以外でも緊急時の医療体制を整えています。提携医療機関の医師による往診が2週間に1回あり、希望する利用者は受診することができます。以前からかかりつけの医師に受診を希望する利用者は、家族と受診するよう対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を1名配置し、常に連絡がとれる体制を確保しています。 必要に応じて家族への連絡もおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関へ入院した際には、こまめに入居者の状況を確認し、ご家族とも連絡、相談ができるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とこまめに話し合う機会を設けるとともに医師、看護師、ご家族と連携が図れるように方針を職員全員で共有しています。	「グループホームにおける看取り介護実施の定義」が定められています。指針を作成し、家族に説明等しています。在宅医療部との連携があり、利用者や家族、職員の安心に繋がっています。昨年は4件の看取りに取り組みました。今後は重度化や看取りの増加についての支援体制や業務の見直しが検討課題となっています。今年も看取りに関する研修を2回予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、定期的に訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員の意識啓発に努めています。訓練には全ての職員が順番に参加できるように配慮しています。災害発生時に備えて、飲料水等を準備しています。</p>	<p>災害時発生マニュアルを整備しています。年2回消防訓練を実施し、そのうち1回は消防署の立会いのもとで訓練を行っています。また、夜間想定訓練も実施しています。ホーム内では、火災非常ベルが鳴ると自動的に各ドアが開錠する仕組みとなっています。1階非常階段下の倉庫には、水、スポーツドリンク類、ビスケット類、お粥等を備蓄しています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の誇りやプライバシーを大切にしながら関わりが持てるように職員の意識を高められるように努めています。また、勉強会や部署会議等で話し合いを行っています。</p>	<p>法人教育の一環として、職員研修に力を入れており、接遇やプライバシーの研修を実施しています。管理者は、ケアカンファレンスや勉強会を通して、利用者に対する尊厳やプライバシーの重要性について学び、日常の中での排泄や入浴の場面、夜勤での言葉かけ等、個々の場面においても丁寧な指導をしています。職員は、利用者一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけをしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、望んでいることに気付けるように努めています。 また、入居者の思いを尊重できるように支援しています。（衣類の決定やレクリエーションの参加など）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人やご家族から今までの暮らしぶりを確認し、どのような生活を望んでいるのか職員間で話し合い、支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を確認し、ご家族とも相談しながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コップにお茶を入れる人や洗い物をする人など、それぞれの状況に合わせて役割をもって頂いています。	朝食は、ホームで職員が調理します。朝食用パンは利用者と共に近隣のコンビニに購入に出かけます。昼食と夕食は併設の老健厨房より調理された副菜等が届きます。ご飯はホームで炊きます。お味噌汁や副菜はキッチンで温めてから盛り付けを行っています。お皿のセットや食後の片づけなど、できることは利用者と共にしています。おやつ作りは月1回あり、ホットケーキやお好み焼き等、利用者の楽しみとなっています。ミキサー食の方には、食事内容がわかるように職員手作りの献立表がリビングに掛けられ、家族の要望に応じています。手の不自由な方には補助具を用意し、自立が支援されています。職員は、利用者と共に食事を摂りながら、季節や行事の話をする等、楽しい場を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに配慮しながら、栄養バランスも考慮して支援を行なっています。食事の摂取量が極端に減少した場合には、職員間で話し合ったり、ご家族と話し合いを行い、個々に合わせた支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄の援助を行い、一人ひとりの排泄リズムを知ることによって排泄の自立に向けた支援に取り組んでいます。	業務一覧表において利用者個々の排泄の記録を取り、排泄パターンや習慣を把握しています。記録は一人ひとりのケースファイルに記載し、カンファレンスや詰所会議にて課題点を検討しています。利用者一人ひとりにあった排泄パターンを把握し、入居時にオムツ対応であった方が、リハビリパンツ、さらには布パンツへと改善された事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認や食事量、水分量の把握を徹底しています。状況に応じて水分摂取を促したり、果物の摂取を働きかけています。また、散歩などの適度な運動も支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しながら、頻度や時間を考慮しています。ADLの低下で二人介助が必要な方は、曜日や時間が限られてしまう場合があります。	入浴については、利用者の希望に沿った支援をしています。重度の方には、職員二人介助で支援しています。入浴を好まない利用者には無理強いせず、一人ひとりに合わせた雰囲気作りや環境を整え、保清にも努めています。毎日の入浴を希望する方にも体制を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リビングや居室で自由に過ごしていただいています。 夜間眠れなくて起きている方には、見守りを行い、話をして気持ちを安らげたり、ホットミルクで体を温めたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診の際に医師より説明を受け、ご家族にも報告を行っています。 不明な点や症状に変化があれば、医師や看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味などは、記録に残し、部署会議やケアカンファレンスの中で話し合いを行い、出来る事柄から実現していけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせた外出が企画できるようにご家族と話し合いを行い、支援していきたいと思っています。	近くのコンビニへ、朝食用のパンを買いに出かけることがあります。希望する利用者には、月1回程度、買い物や食事に出かける支援があります。年間行事として、初詣、花見、菖蒲園等へ外出する企画があり、多くの家族が参加しています。敷地内が広いこともあり、日常的に敷地外へ出かける支援は行っていない状況です。	利用者の重度化により、日常的な外出支援が難しい状況となっています。今後は、気分転換や季節感が味わえるよう、天気の良い日には近隣への散歩や外気浴等の機会を検討することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に支払いをして頂くことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望があればかけられるように支援しています。 ご家族の意見を聞きながら援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節ごとに壁画を飾り、季節の変化を楽しめるようにしています。	利用者が集うリビング兼食堂は、広くて明るい空間になっています。壁面には、手作りカレンダーや季節の飾り物を掲示し、季節や日時が分かりやすいよう工夫しています。キッチンには中央にあります。食事用のテーブルと椅子、ソファコーナー、畳コーナー、リビングの裏側にはランドリーコーナーが用意されています。利用者は、それぞれお気に入りのコーナーでゆったりした時間を過ごしたり、洗濯物をたたんだりしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで自由に過ごせるようにしています。 気の合った入居者さん同士で楽しそうに会話している姿も見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時あるいは、適宜、ご本人やご家族の意向を確認し、使い慣れた机や椅子、趣味に関する物を持ってきて頂き、使用されています。	家族の協力もあり、各居室は利用者の使い慣れたテーブルやソファ、テレビなどを持ち込んでいます。明るい光が射し込む出窓には、花の鉢植えやぬいぐるみ等が置かれています。壁には、利用者が以前作成した絵画や習字等の作品を飾り、テーブルには、家族写真を置くなど、個性豊かな空間作りをしています。また、季節の飾り物や職員からの誕生日メッセージも飾っています。居室内にはベッド、タンス、洗面台等が設置され、利用者が居心地良く過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室に段差が無く、フロア入口も出入りしやすくなっています。 廊下やトイレ、浴室に手摺が設置されているので、安全に移動できるように配慮しています。居室内に洗面台が設置されていて、起床時の整容なども居室で見守りの下、行っていただいています。		